

阿部和建築文化研究所

登録文化財

遊佐家住宅 宮城県登米市 修理復権記録

登録文化財 遊佐家住宅 修理復権記録



平成廿二年 2010

遊佐家住宅主屋は2005年に高断熱高気密耐震補強を伴う修復工事を行いました。2020年に1740年代の建築であることが判明、現在から数えて280年も前に建てられた住宅に、高断熱高気密補強をすれば住み続けられることが証明できました。

2003年(平成15)、病気の父親の介護で、単身実家に戻っていた遊佐家16代当主三浦康子さんが、江戸時代中期の寒い古民家に夫と一緒に住むためにはどうしたら良いか悩んでいました。その時とった行動とは・・・

(2) 国登録有形文化財(建造物)

① 遊佐家住宅 6棟

【平成18年(2006)3月2日登録】

登米市中田町に所在する遊佐家住宅は主屋など6棟が登録文化財に登録されています。

建物群は江戸時代から昭和初期のものと考えられています。2019年に主屋の一部部材から試料を採取し、放射性炭素(14C)年代法に基づく年代測定を行った結果、主屋の建築は1740年代であることがわかりました。

詳しくはこちら



遊佐家住宅 主屋 (宮沢・安井・江村 2010より転載)

『登米市の文化財15年』2021 発行；登米市歴史博物館より



登録有形文化財
遊佐家住宅

土間空間の梁組とトマ境壁に建つ曲がった柱 撮影：魚住一夫

放射性炭素年代測定で明らかにした
1740年代建築の遊佐家が織りなす空間の魅力



文化庁から交付された真鍮のプレート

阿部和建築文化研究所が行った測定結果と¹⁴C年代測定法について、本研究所が分かりやすいパンフレットを作りました。是非ご覧ください。